

## 美しい姿

使徒言行録 2:37-47

2026年5月31日

先週はイエス様の代わりとして、聖霊なる神様が私たちの元に降ってこられた聖霊降臨祭・ペンテコステ礼拝をお捧げしました。本日は、その出来事の続きで初期教会の様子を見て参ります。44-47節には、教会の美しい姿が描かれています「信者たちは皆一つになって、すべての物を共有し、財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである」と記されており、一つという言葉が何回も繰り返されています。

### 一つになるとは

この示されている一つとは何でしょうか。人間の思いや考えて一致団結するのではなく、神様の御業、聖霊なる神様のお働きによって一つとなったのです。私たちの周りの社会でも人為的な一致というものがあります。旧約聖書にもバベルの塔の物語が記されています。聖霊降臨と対比して読まれる箇所でもあります。聖霊が下った時、聖霊の力、神様の御業によって、それぞれの国の言葉が違って心を通じようになりましたが、バベルの塔の物語は、神様によって人々の心を通じなくなってバラバラに散らせたという出来事が記されています。

その内容は、人々は一致団結して巨大な塔、天まで届く塔のある町を建て、有名になって全地に散らされることのないようにしようと計画を立てましたが、神様は彼らの言葉を混乱させ、互いに心を通じないようにしました(創世記 11:4)。自分たちの欲望や必要を満たすための一致団結は、神様はストップをかけるのです。神様はそのような一致団結を望まれません。

### ペトロの説教

さて、聖霊降臨祭の出来事の後、弟子たちは神の大きな御業を語りだしましたが、人々は嘲り酒に酔っていると人々は思ったと記されています(2:13)。それを受けて、ペトロが彼らを代表して説教を始めました。これが最初の説教となりました。(2:14-42)その内容は、イエス様のご生涯、復活、昇天について大胆に語り、このイエス様こそ、主、キリストであることを強調しました。「だから、イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなされたのです。」(2:36)と、力強く語ったのです。

そうしたところ、ペトロの説教を聴いて心を動かされた人々は具体的な指示を求めました。2章38節には、このように記されています。「すると、ペトロは彼らに言った。『悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として、賜物として聖霊を受けます』。そうして、洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わったとあります。

早速、42 節には、「使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ること熱心であった」とあります。教会の大切な本質が記されており、その結果、「こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである」(47 節)とあるように、麗しい教会の姿となっていたのです。この使徒たちの信仰を継承していくのが教会であり、私たちであるといえます。ペトロの大胆な説教によって、人々は悔い改め、洗礼を受けて、聖霊の賜物を頂きました。そのやりとりを再度見て参ります。

### 説教の根本

「イスラエルの全家は、はっきり知らなくてはなりません。あなたがたが十字架につけて殺したイエスを、神は主とし、またメシアとなさったのです。」

37 人々はこれを聞いて大いに心を打たれ、ペトロとほかの使徒たちに、「兄弟たち、わたしたちはどうしたらよいのですか」と言った。

38 すると、ペトロは彼らに言った。「悔い改めなさい。めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます。」

39 この約束は、あなたがたにも、あなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり、わたしたちの神である主が招いてくださる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」

40 ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と勧めていた。

41 ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。

ペトロの説教は、人々の生き方が根本から変わる激しさのものだったと思います。私たちの属しているホーリネスの群れの信仰の源流をお話して終わります。私たちの教会は、イギリス・メソジストの流れで、ジョン・ウェスレーという、[英国教会の司祭](#)の信仰を継承してい。彼は、[メソジスト運動](#)と呼ばれる信仰覚醒運動を指導した人物です。[アメリカ合衆国・ヨーロッパ、アジア](#)で大きな勢力をもつに至った運動から生じたのがメソジスト派という[プロテスタント教会](#)です。特にアメリカでは聖化を強調し、『[キリスト者の完全](#)』を唱えました。これはウェスレー派のメソジストと「[きよめ](#)」を強調する[ホーリネス運動](#)に継承されています。ですのでそのことを覚えて、毎年6月は、ホーリネル強調月間として「[新生](#)」「[聖化](#)」「[神癒](#)」「[再臨](#)」の説教となります。

さて、このジョン・ウェスレーは、馬車に乗ってあらゆるところで説教をし、そこではこの初代教会の時のように多くの人々が救われたといわれています。その説教たるもの2-3 時間、時にはもっと長ったようですが、会衆はじっと聞き入っていたとのこと。説教集も沢山でており、神学校時代読みましたが、長くて難しい……。当時の校長であった島隆三先生も、「いや～、こんなに長くて難しい説教を当時の人は良く聞いたものだ」と仰っているほどでした。当時、私もそう思ったものですし、今もその難しい長い説教集を読むのは困難ですが、根本は変わらないと思います。イエス様は私たちのため

に命を投げ出してくださった、だから私たちも命を投げ出すほど真剣にイエス様と向き合っていないとならないと……。難しいですが……。

しかし、悔い改め＝神様の方に向き合う、つまり方向転換した時、自分の罪と向き合い、復活されたイエス様をありがたいと思って感謝して生きてゆく中で、自分の内面世界だけでなく、自分の現実の生活も変えてゆくということは理解でき、実践できることではないでしょうか。そうした時、聖霊なる神様が働いてくださり、自ずと教会は一つなり麗しい姿をこの世に証しすることができ、まだイエス様を知らない人々から好意を寄せられてゆくことになるでしょう。